豊富小学校

研究通信

２０１５．１０．３０

NO.　1

校内初任者研修の一環としてとして１０月７日(水)に指導主事のお二人の先生を助言者にお迎えして、初任者の先生の授業研究を行いました。

2年　算数　三角形と四角形 「形をしらべよう」

◆授業者　前島　洋彦先生
◆助言者　中北教育事務所指導主事　小林　紀浩先生
　　中央市教育委員会指導監　藤巻　稔先生
◆日時　平成２７年１０月７日（水）
◆教科等　算数
◆単元名　三角形と四角形　「形をしらべよう」
◆目標　知三角形や四角形の意味を理解する。

《本時で取り組む「学び合いを深めるための手立て」》

ウ）学習課題の提示の工夫
・パズルを用意し，学習意欲を喚起するとともに，多くの児童が視覚的に理解できるようにする。
ケ）ふり返りやまとめを授業の中に位置づける。
・学習課題に結び付いたまとめをワークシートに書くことで，授業で行った活動を理解につなげる。

《授業者より》

・つかむ部分では詳しいところまで話し過ぎてしまった。
・ペアでの話し合いはなかなか難しく，話し合いとまではいかなかった。
・検討の部分では「誰がやっても同じになる」というところをもう少しわからせたかった。
・全体的に反応が無く焦ってしまい，自分で喋りすぎてしまい時間が足りなくなってしまった。適用問題の答え合わせができなかったのが残念だった。
・三角形と四角形の概念，必要性を話した後，全体での確認の時間をとれば良かった。

《参観者より》

児童の様子
〇とても集中していた。
〇よく指示が聞けていて課題に意欲的に取り組んでいた。
〇普段指示が通らない子や落ち着いて集中できない子も，最後まで一生懸命頑張っていた。
●三角形・四角形などの言葉と，図形が一致していない子がいたのではないか。
●ペア学習でどう話していいのか分からない段階で難しかったのではないか。

教師の指導・支援は有効であったか
●最初の説明で「とがった　とがってない」は言わなくても良かったのではないか。
●正しい分け方が分かった段階で，一度全体で一人ひとりやらせて「三角形・四角形」の確認が必要だったのではないか。
〇三角形，四角形の“ひみつ”という表現が良かった。

●ホワイトボードの記入例を提示するとよい。
●何を話し合うのか，子どもたちがよく分かっていない場面があった。
「誰が見ても分かりやすい分け方はどれだろう」「だれがやっても同じなのはどれだろう」と問い答えを選ばせるより，子どもたちがやった実際の分け方を詳しく分析する中で違いや感覚のずれがあることに気付かせながら三角形・四角形に絞られていくような段階が欲しい。
●先生が意見を言っていくのではなく，（待って）子どもに意見を出させてまとめていくと良い。
●適用問題の答え合わせをするべきだった。間違っている子がかなりいた。
●適用問題の図形の形がもっと分かりやすい形の方が良かったのではないか。

本時の目標は達成されたか

〇概ね達成だが，適用問題の正解と不正解とが半々ぐらいだったので課題あり。直線の理解ができていない子もいた。

その他

〇板書が授業の流れに沿ったものになっていてとても分かりやすかった。
〇授業に対する姿勢がとても良い。

《指導・助言（藤巻指導監）》

・まず教材観をしっかりと理解把握しておくこと。指導要領から参考にすることが基本。その中で「単元の構成」や「知識として押さえるべきこと」などの部分を詳しく表記していく。
・教材分析をしっかりとする。１年生は形を抽象化することをしているので富士山のような台形型でも「さんかく」、おむすびも「さんかく」、黒板消しは「しかく」と認識している。子どもにとっての「さんかく」は正三角形や二等辺三角形を指している場合が多く、直角三角形のような三角形は「さんかく」とは認識していないことが多い。２年生は「形」ではなく「直角」に目をつけて図形を見ることを学ぶので，まず直線を教える。→今日の授業でまだ，直線を理解していない子がいた。認識していないと，三角形や四角形は理解できない。
・指導観をしっかりと明確にしておく。子どもの思考の流れという観点で「どうして，この活動が，このように位置づけられているのか」を考え，教科書通りでもなぜそうするのか説明できないといけない。概念形成が先，言葉は後。操作と作業をきちんと区別する。評価は「児童がどうすれば分かったと判断するのか」を明確にする必要がある。今回の場合，指導案の目標は達成できていないことになる。

《指導・助言（小林指導主事）》

・問題解決的な学習の授業展開にするには魅力ある課題の設定が大事である。多様な見方や考え方を引き出すためには，最初にいろいろ言わず，まずやらせてみること。
・考える，見通す自力解決は児童の実態に合った解決をさせること。一人でじっくり考える時間を確保。今回，時間が少し足りなかったのではないか。
・ペア学習は，単なる発表会ではない。話し合いの仕方をもう少し訓練する必要がある。
・問題の解決，振り返りのまとめの部分では，時間がなく残念だった。三角形，四角形については体感できる何かが必要と思われる。
・算数的活動の楽しさを感じることができる授業を作るために，①算数を日常の事象と結び付ける活動②ものづくりをするなどの作業的な活動③実際の数や量の大きさを確かめたりするなどの体験的な活動④九九表に潜むきまりを発見するなどの探求的な活動⑤解決した問題からの新しい問題づくりなどの発展的な活動等を通して，児童が活動の楽しさに気づくことをねらって授業を作っていくことが大切である。子どもたちの学習への意欲，ワクワクにつながる。

運動会が終わってすぐの忙しい時期に、授業を準備していただいた前島先生、低学年ブロックの先生方ありがとうございました。　（文責：渡辺）